

Costume and Textile

No.36

服飾文化学会会報

2018年9月

会長就任にあたって

長崎 巖

平成30年5月、能澤慧子先生の後を引き継いで会長に就任いたしました。これまでの歴代会長の仕事ぶりを拝見してまいりましたので、果たして自分にそのような大任が果たせるかと少々不安もありますが、ともかくも学会のために尽力していきたいと思っています。



学問の世界に入って35年ほどになりますが、その間、心を動かされる色々な作品や多くの先達に出会ってきました。研究では、服飾文化の中に見られる美の側面を歴史的観点から追及する美術史から出発して、服飾を各時代の文化が生み出した産物として捉える文化史へと立ち位置を広げながら、今日に至っています。

人との出会いでは、研究を通じて知り合った多くの研究者に加え、様々な染織品を作り出してきた技術者や作家の方々との交流の中で多くを学ぶことができました。学問にとって重要なことは、同様の目標を持った人々との交流によって自分を高めていくことだと思います。私自身について言えば、人々との出会いによって視野を広げ、新たな研究意欲を持つこともできました。本学会もそのような機会を提供できる場でありたいと考えています。会員の皆様相互の協力によりこの学会が発展していくことを目指して、がんばってまいります。皆様どうぞよろしく願いいたします。

役員改選について

2017年12月より選挙管理委員会による役員改選の準備が始まり、本年1月27日消印有効で受理した投票用紙を2月5日開票。2018、2019年度理事29名と監事2名が選出されました。また、第1回理事会において長崎巖氏が会長に選出され、役員を担当は以下のように決まりました。

2018・2019年度 服飾文化学会役員

担当	氏名	所属
総務	会長	長崎 巖 共立女子大学
	副会長	大網 美代子 大妻女子大学
		福田 博美 文化学園大学
財務	大塚 有里 東京家政大学	
	沢尾 絵 東京家政大学	
事務局	田中 淑江 共立女子大学	
	宮武 恵子 共立女子大学	
庶務	鈴木 桜子 杉野服飾大学	
	富田 弘美 東京家政学院大学	
	難波 めぐみ 郡山女子大学	
総会・大会	富田 弘美 東京家政学院大学	
	藤田 恵子 東京家政学院大学	
	内村 理奈 日本女子大学	
	福田 博美 文化学園大学	
夏期セミナー	中川 麻子 大妻女子大学	
	安部 智子 和洋女子大学	
	藤井 裕子 女子美術大学美術館	
論文発表会	伊藤 瑞香 和洋女子大学	
	管野 絢子 文化学園大学	
	水谷 みつ江 文化学園大学	
研究例会	新實 五穂 お茶の水女子大学	
	菅野 ももこ 女子美術大学美術館	
	三友 晶子 東京家政大学博物館	
学会誌統括	玉田 真紀 尚絅学院大学	
学会誌編集論文編	須藤 良子 大妻女子大学	
	大川 知子 実践女子大学	
	深津 裕子 多摩美術大学	
学会誌編集作品編	大崎 綾子 女子美術大学	
	大網 美代子 大妻女子大学	
	玉田 真紀 尚絅学院大学	
会報編集	馬場 まみ 京都華頂大学	
	小山 直子 昭和女子大学(非)	
	森下 あおい 滋賀県立大学	
監事	岡田 宣世 和洋女子大学	
	能澤 慧子 元東京家政大学	

2018 (平成30) 年度 第19回服飾文化学会大会の報告

平成30年度服飾文化学会 第19回大会・総会は5月12日(土)・13日(日)の2日間に渡り、東京都町田市にある東京家政学院大学にて開催されました。2日目の終了間際に雨に見舞われましたが、概ね天候に恵まれ、正会員82名、非会員5名、学生会員7名、学生非会員6名の計100名の参加が得られました。以下はその概要です。

1. 口頭発表、作品・ポスター展示発表

研究発表件数は、口頭発表11件、作品展示発表10件、ポスター発表3件の合計24件でした。

福田博美副会長の開会の辞に続き、口頭発表は12日に4件、13日は7件あり、活発に質疑応答が行われました。作品・ポスター展示は、2日目にパワーポイントを用いてのスピーチがあり、午後からは展示の前で質疑応答が熱心に行われました。

2. 特別講演

株式会社鈴乃屋広報部の千原初江氏とNHK制作局ドラマ番組部チーフ・プロデューサーの岡本幸江氏による「NHK大河-衣裳が語るドラマの創り方」の講演が実施されました。

千原初江氏は、東京家政大学短期大学部栄養科を卒業され、京都衣裳株式会社に勤務の後、NHK大河ドラマの1976年の「風と雲と虹と」を皮切りに、衣裳担当としてデザイン・着付けやコーディネートに携わり、1982年の「峠の群像」まで大河の7作品を手がけられています。

1984年に株式会社鈴乃屋に入社してからは1985年の「春の波濤」から2017年の「おんな城主直虎」までの

計33作品の衣裳考証、一部衣裳デザイン、製作に携わって来られ、多数のTVドラマ、映画などの衣裳監修・考証・デザイン、構成も担当されています。

岡本幸江氏は、NHKドラマの2009年「ROMES空港防衛システム」、2010年「天使のわけまえ」、2011年「テンペスト」・「金魚倶楽部」、2012年「あつこと僕らが生きた夏」、2013年「ごちそうさん」、2014年「ごちそうさんっていわしたい!」、2015年「二十歳と一匹」・「経世済民の男/小林一三」、2017年「おんな城主直虎」など、それぞれの制作統括をされています。

今回はお2人共通して携わられた2017年「おんな城主直虎」について、主に語っていただきました。

直虎の時代の歴史的史料が乏しいため、時代背景、登場人物のおかれた立場、年齢、季節などを考慮して、登場人物の着用する着物類の色彩、素材、デザインを創作されたそうです。例えば、井伊家の鎧の色が赤ということから、直虎が城主として活躍した時代には鮮やかな赤を裏に使った打ち掛けを着用させ、年と共に次第に赤系でも臙脂色に変化させて用いたことや、対立する立場で本心が読めない人物には、青や黒などの寒色系の色を使用し、できるだけ肌を見せないように手首や首を布で覆う工夫がなされたなど、興味深いお話もされました。

3. 東京家政学院生活文化博物館見学

東京家政学院生活文化博物館にて、「収蔵品展 洋装と装飾コレクション」のテーマで、カルダンなどのオートクチュールドレスやヨーロッパのレース、刺繍が施された民族衣装などの展示見学が、プログラムになっていました。17世紀のものから40年前のものまで



口頭発表の様子



特別講演の千原初江氏と岡本幸江氏

色褪せず美しさを保っています。これらの資料は、旧東京家政学院短期大学の洋裁・手芸研究室の教具や研究用に購入され、学部と短大の再編に伴い生活文化博物館に移管されました。当時の教員が優れたデザインや高度なプロの技術を学生へ、直接見せて学ばせるために選び抜いた資料です。12日、13日の両日自由見学をしていただきました。

4. 情報交換会

12日の夕刻に、第2食堂にて能澤慧子元会長のご挨拶及び乾杯のご発声で、情報交換会が始まりました。52名に加えて特別講演の千原氏と岡本氏もご参加くださり、時間の関係でご講演では伺えなかったことを質問したり、終始和やかな雰囲気でご歓談いただきました。

今年度から名称を懇親会から情報交換会に変更しました。情報交換の場に相応しい一時を過ごしていただけたと思います。

5. その他

13日の午後、展示会場での質疑応答後、長崎巖新会長の閉会のご挨拶で本大会が無事終了しました。

今年度もカメラマンの末正真礼氏により展示作品の撮影が行われました。

皆様のご協力をいただき、第19回大会・総会を無事終了することができましたことを深く感謝申し上げます。
(大会実行委員 藤田恵子)

第19回大会・総会プログラム

5月12日(土)

・開会の辞 13:00~13:05

服飾文化学会 福田博美 副会長



作品・ポスター展示会場の様子

・口頭発表 13:05~14:05

❖座長 大川知子(実践女子大学)

A-1 ファッション情報の伝播におけるメディアの変容-参与観察調査を基にした時系列推移から-

共立女子大学 ○宮武恵子 大塚絵美子

❖座長 能澤慧子(元東京家政大学)

A-2 19世紀フランスの子ども服と男らしさ

-「初めてのズボン」の表象をめぐって-

お茶の水女子大学 新實五穂

❖座長 深津裕子(多摩美術大学)

A-3 20世紀初頭の欧米ファッションにおける日本産羽二重の利用について

東京家政大学博物館 三友晶子

A-4 マリアノ・フォルチュニの異国趣味 日本の染め型紙を中心として

三菱一号館美術館 阿佐美淑子

・特別講演 14:15~15:45

・講演内容: NHK大河-衣裳が語るドラマの創り方

・講師: 千原初江 氏(株式会社鈴乃屋広報部)

岡本幸江 氏(NHK制作局ドラマ番組部 チーフ・プロデューサー)

・総会 15:55~16:25

・情報交換会 16:40~18:00

・自由見学 12:20~16:30

「収藏品展 -洋装と装飾コレクション-

東京家政学院生活文化博物館

5月13日(日)

・口頭発表 9:15~11:00

❖座長 福田博美(文化学園大学)

B-1 中国における「学生服」について-1900-30年代を中心に-



情報交換会の様子

大阪大学大学院 劉 玲芳

- ❖座長 岡田宜世 (和洋女子大学)
- B-2 江戸時代前中期公家女性の小袖 - 文献・打敷などからわかること -

共立女子大学博物館 川井結花子

- ❖座長 長崎 巖 (共立女子大学)
- B-3 「番楽」翁衣装の製作に関する調査研究
- 文化学園大学 角谷彩子
- B-4 在米博物館における沖縄の染織品
- Peabody Essex Museumを中心に -
- 大妻女子大学 須藤良子

- ❖座長 大網美代子 (大妻女子大学)
- B-5 オートクチュール・ドレスの造形研究3 - 1954年制作のイヴニング・ドレスから -
- 杉野服飾大学 ○安部智子 水野真由美 森 淳子

- ❖座長 長田美智子 (鎌倉女子大学)
- B-6 学校教育における和服普及に関する研究
- 法政大学国際高等学校 内山奈々
- B-7 機能美に特化した身障者と健常者が「共有できる服」のデザイン設計-構成を中心に-
- 大妻女子大学 大網美代子
- ・ポスター・作品展示 ショートスピーチ
- 11:10~12:15

- ❖司会進行 玉田真紀 (尚絅学院大学)
- C-1 日本における『三国志演義』受容の過程 - 図像資料の服飾表現から -
- 藤女子大学 長尾順子
- C-2 シニアのファッションデザインのためのデフォルマシオンの分析
- 滋賀県立大学 森下あおい
- C-3 大学における工芸染色の授業実践と教育効果

東京家政学院大学 佐々木麻紀子

- C-4 伝統的素材を用いたデザインの研究
- オリジナルデザインの紙布 -
- 梅花女子大学 矢澤郁美
- C-5 トレンド分析からオリジナルデザイン展開へ
- 副資材を使用した装飾技法について -
- 文化学園大学 小出恵

- C-6 マクラメの基礎研究
- 平結びの寸法について -
- 文化学園大学 井上昌恵
- C-7 再現番組で使う明治8年制定の陸軍服 (略服) の製作

株式会社武器屋 磯野圭作

- C-8 江戸時代後期の葛布地道中着の復元
- 多摩美術大学 深津裕子
- C-9 機能美に特化したユニバーサルファッションのデザイン・設計IV - 身障者と健常者が「共有できる服」 -

大妻女子大学 大網美代子

- C-10 通学及び学習時の動作性を考慮した制服の設計
- 滋賀県立大学大学院 ○井上智子
- 滋賀県立大学 森下あおい

- C-11 レプリカ製作を通してみる19世紀ヨーロッパのこども服-ウール地ドレス-
- 東京家政大学 ○杉野公子
- 京都国立博物館 降幡順子
- 元東京家政大学 能澤慧子

- C-12 ゴールドワークの表現方法
- 昆虫標本の制作 -
- 文化学園大学 野本智恵子

- C-13 システムバレエ衣装 - 王子の白系ジャケットのバリエーション -
- 東京家政学院大学 富田弘美

- ・昼食 12:15~13:15
- ・作品・ポスター展示の説明・質疑 13:15~14:15
- C-1~C-13の各作品前で発表者が説明
- ・自由見学 9:30~15:00 「収蔵品展 - 洋装と装飾コレクション -」東京家政学院生活文化博物館



東京家政学院生活文化博物館の展示

特集記事 書籍『ヨーロッパに眠る「きもの」 ジャポニズムからみた在欧美術館調査報告』紹介

周防 珠実 (京都服飾文化研究財団キュレーター)

本書は、日本染織品、とりわけ「きもの」がジャポニズムと関連して欧米に与えた影響を考察し、明らかにするための手立ての一つとして、ヨーロッパの美術館に保存されている、「きもの」及び関連の染織品についての調査報告書である。

19世紀半ば、鎖国を解いた開国後の日本が急速に海外に知られたとき、日本の品は蒐集家や愛好家、あるいは美術館などによって収集され、ジャポニズムの波を引き起こした。そのなかには、当時の他の衣文化の中でも抜きんでて洗練された「きもの」をはじめとする日本染織品が含まれていた。それら日本染織品がさまざまな影響を引き起こしたことが知られるようになったとはいえ、それらの海外における収蔵状況は、必ずしも包括的に調査されたことはなかった。また、ジャポニズム期に欧州に流失した日本染織品は、現今、その多くが美術館等の専門施設で保管されているが、西欧地域の小中規模の美術館は日本部門、あるいは染織に関わる専門研究者を持たず、また染織品固有の保管の難しさなどから、日本染織品へのアプローチが拒まれているのが実状である。広く、今後の日本研究に貢献するため、調査研究を実施する必要がある。

そのため、19世紀後半から20世紀初頭のジャポニズムと共に、日本染織品が欧米へ強い影響を与えた時期に焦点を当て、欧州に渡り、在欧美術館に現存する「きもの」及び日本染織品の概要を明らかにするため、平成21年度から28年度にかけて、現地調査及び追補調査を実施した。調査結果を広く公表するため、一般書籍として、『ヨーロッパに眠る「きもの」—ジャポニズムからみた在欧美術館調査報告』(深井晃子、長崎巖、周防珠実、古川咲共著、東京美術、2017)として刊行した。

本書において、ファッションにおけるジャポニズム研究の先駆者であり、『ジャポニズム イン ファッション』(平凡社、1994)や『きものとジャポニズム: 西洋の眼が見た日本の美意識』(平凡社、2017)の著者、深井晃子は、論考「ジャポニズムの時代の『きもの』—在欧美術館所蔵染織品調査報告」において、本研究の目的や方法と、「きもの」とジャポニズムの関係を、また産業と美術の融合による日本染織品への眼差しについて概説した。

また、アメリカの美術館における日本染織品の調査研究について先行研究を行い、その著書『在外日本染織集成』(小学館、1995)で明らかにした長崎巖は、本書の論考「明治期における日本の染織品の海外流出」において、収集家や美術商によって海外に流失した経緯と、収集された日本染織品の傾向を明らかにした。

「各国における「きもの」および日本染織品所蔵状況」において、周防珠実と古川咲が、フランス、イギリス、イタリア、ポーランド、ドイツの各館—パリ装飾芸術美術館、パリ市立衣装美術館、V&A美術館、スコットランド国立博物館、オーストリア応用美術博物館、ウイーン世界博物館、ウイーン民俗学博物館、ハンブルク美術工芸博物館、ヴェネツィア東洋美術館、ルイージ・ピゴリーニ先史民族学博物館、日本美術技術博物館他—の調査対象品の内容(形状、材質、技法、模様、コンディション、制作年代)やコレクション形成期、入手経路・方法についての調書を取りまとめた。

入手経路・方法は下記のように大別できる。

①日本品を取り扱う店や美術商からの購入。とくにジャポニズムの流布の一翼を担い、染織品も取り扱ったS.ピングや林忠正を介して、染織品が美術館や収集家の手に渡っていた。②万博後の売立による購入や寄贈。19世紀後半欧米各地で開催された万博は、ジャポニズムが広がる要因のひとつとなり、一方で近代的な貿易に乗り出そうとした日本にとっても有益な商業の場であった。当時、英国をはじめとして繊維産業は国家的な重要産業で、産業博物館を前身とする館は産業振興を目的に万博後の売立で染織品を購入し、日本側からも寄贈した。③収集家からの購入や寄贈。収集家自身が日本を訪れた際に入手したもの、美術商等から購入したものが後に美術館に寄贈・購入された。

限りある調査日程内で実見できなかった調査対象品も多かったが、のちに各館に情報を求めてできる限り補足し、各館の収蔵品リストを巻末に付けた。

本書によって、日本流出品に含まれていた「きもの」及び関連の染織品はようやくその概観を見せた。今後、より総括的調査が行われ、本書が、さらなる研究の糸口へと繋がってほしいと願っている。

2018年度 第19回 夏期セミナーの報告

今年度の夏期セミナーは平成30年8月8日（水）～9日（木）の1泊2日の日程でデニムと制服で有名な広島県福山市と岡山県倉敷市児島にて実施されました。今年度は西日本豪雨による土砂災害が心配されましたが、当日はお天気に恵まれ、予定通りの開催となりました。

第1日目 8月8日（水）

福山駅改札から徒歩1分の福山ニューキャッスルホテルロビーに集合し、貸切バスに乗り込み、セミナーがスタートしました。約15分で最初の見学地である福山市松永履物博物館に到着しました。福山市は、昭和30年（1955年）のピーク時には全国一の下駄生産を誇っていた土地になります。履物商で財を成した丸山茂助（1853～1917）が松永中之町に丸山下駄店を開業し、履物生産日本一の下駄の町にしたといわれています。松永履物博物館の資料は丸山によって収集され、日本各地の様々な下駄コレクションや、歴史的なスポーツ選手のシューズコレクション、16世紀からの西洋の靴のコレクションなど約1万3,000点の収蔵品を誇ります。



松永はきもの博物館の西洋の靴のコレクション

履物以外にも、国内の玩具約1万8,000点の収蔵があり、その中でも国内最大のコレクションであるホピ族のカチナ人形が一堂に並び、見どころがたくさん展示室を見学しました。当日は、休館のところ夏期セミナーのために開館してくださいました。見ごたえ十

分な展示室を後にし、1893年（明治26）創業のカイハラ株式会社へ向かいました。国内トップシェアで世界的にも有名な国産デニムの生産を行っているカイハラ株式会社では、カイハラ会長の貝原良治氏が迎えてくださいました。紡績・染色・織布・整理加工まで一貫生産が行われる中で、3班に分かれてレクチャーいただきながらの見学となりました。



株式会社カイハラの工場見学風景



貝原歴史資料館で藍染体験

工場見学後には、バスで貝原歴史資料館へ移動し、インディゴ染の体験を行いました。

盛りだくさんの1日目の終わりには、宿泊のホテル1階にあるレストラン「ロジェ」にて懇親会が開催されました。服飾文化学会副会長の福田博美先生よりご挨拶と乾杯のご発声をいただきました。地産地消にこだわった食材を使用した本格フレンチで見学の際の緊

張もほぐれ、楽しいひと時を過ごしました。最後に伊藤一郎先生の締めのご挨拶で1日目が終了しました。

第2日目 8月9日(木)

最終日は、倉敷市を見学して回りました。早めの出発だったため、インターチェンジで一度休憩を取りました。インターチェンジでは、お土産を買う方など各々の時間を過ごされました。予定の時間より少し早めでしたが、株式会社ショーワに向かいました。株式会社ショーワは、デニムだけでなく、キュプラなどの新素材の開発で知られています。はじめにショーワの歴史を映像で見させていただき、世界的有名ブランドに使用された新素材のデニムなどに触れ、工場と綿畑に移動しました。



児島学生服資料館の見学



株式会社ショーワでデニムサンプルを見学

綿畑では、綿花が実をつける時期で、黄や濃いピンクの美しい花に加えて、膨らみ始めた実も見ることができました。

昼食は、むかし下津井回船問屋内の「カンティーナ登美」に訪れました。漁業の町の新鮮な魚に舌鼓を打ちながら、風情のある建物も楽しみました。昼食の行き帰りのバスの車内からは、瀬戸大橋を眺めることができました。

昼食後は、倉敷市の児島にあるジーンズミュージアムへ向かい、フリータイムとなりました。ジーンズミュージアムでジーンズ作りやストラップ作りなどのモノづくりを行う方や、日本一の学生服の産地である児島ならではの学生服資料館に足を運ぶ方もいらっしゃいました。

1時間半のフリータイムもあっという間に過ぎ、JR岡山駅へ向かうバスの中で解散式を行いました。

今年度は1泊2日のコンパクトな日程で、福山・児島地域の魅力あふれるテキスタイル産業を、工場見学・実習も行いながらまわることが出来ました。

参加者は、学生1名を含む20名でした。新規の方も多く参加いただける会となりました。

(夏期セミナー担当委員 藤井裕子)

第19回(平成30年度) 夏期セミナー スケジュール

8月8日(水)

- 12:00 : 福山ニューキャッスルホテル
ロビー集合(JR福山駅前)
- 12:15 : 出発(貸切バス利用)
- 12:30~13:30 : 福山市松永はきもの博物館
(広島県福山市)
- 14:00~18:30 : カイハラ株式会社
貝原歴史資料館(広島県福山市)
- 19:10 : 福山ニューキャッスルホテル着
- 19:30~ : 懇親会 ホテル1階
フレンチレストラン「ロジェ」

8月9日(木)

- 08:00 : ホテル出発(貸切バス利用)
- 09:30~12:15 : 株式会社ショーワ(岡山県倉敷市)
- 12:30~13:30 : 昼食 むかし下津井回船問屋内
「カンティーナ登美」
- 14:00~15:30 : ジーンズミュージアム
児島学生服資料館など自由見学
(岡山県倉敷市)
- 16:45 : 閉会・解散 JR岡山駅

会計報告

①服飾文化学会 平成29年度 収支決算書 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

項目	予算	決算	予算との比較(△減)	備考
収入				
(1)年会費	1,400,000	1,418,000	18,000	H30 正6,000×3名 H29 正6,000×206名、正5,000×1名(1,000不足)、学3,000×8名 H28 正6,000×14名、学3,000×1名 H27 正3,000×1名(会員区分変更不足分)、学3,000×1名 H26 正6,000×5名、学3,000×1名 H25 正6,000×1名、学3,000×1名
(2)入会費	10,000	9,500	△ 500	H21 000×1名、学500×3名
(3)年間購読料	54,000	45,000	△ 9,000	3,000×15名
学会誌				
(4)論文掲載料	550,000	283,000	△ 267,000	Vol.18掲載料5名、審査通信費3,000×3名(前年度済2名)
(5)作品掲載料	420,000	856,000	436,000	Vol.9掲載料1名、Vol.10掲載料13名、審査通信費3,000×14名
(6)その他	0	37	37	料子 37(ゆづりよ、UFJ2)
(7)繰越金	167,661	167,661	0	
収入計 A	2,601,661	2,779,198	177,537	
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	150,000	150,000	0	
学会誌				
2)論文編発行費	700,000	400,914	△ 299,086	
3)作品編発行費	750,000	1,243,046	493,046	
4)事務管理経費	200,000	90,139	△ 109,861	
5)通信費	89,661	53,006	△ 36,655	
6)会報発行費	160,000	174,174	14,174	会報No.34,35
7)事務用品費	60,000	3,000	△ 57,000	
8)会議費	47,000	46,427	△ 573	
9)交通費	40,000	6,938	△ 33,062	監査・理事会交通費(実費上限2,000円)を含む
10)雑費	10,000	7,128	△ 2,872	大会開催校への土産
(2)事業費				
1)事業費A	60,000	56,325	△ 3,675	研究会
2)事業費B	160,000	135,344	△ 24,656	論文発表会
3)事業費C	60,000	32,653	△ 27,347	理事選挙費用
(3)広報費	110,000	105,700	△ 4,300	ホームページ作成費を含む
(4)交流費	5,000	5,000	0	生活科学系コンソーシアムH29年度会費
支出計 B	2,601,661	2,509,794	△ 91,867	
収支差額 A-B	0	269,404		
次年度繰越金		0	269,404	

②服飾文化学会 平成29年度 財政調整積立金収支報告書

項目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越金			1,257,859	
大会・総会剰余金	186,993			
夏期セミナー剰余金	33,650			
			1,478,502	
支出				
服飾文化基金	1,000,000			H21年度
	1,000,000		2,000,000	H22年度

③服飾文化学会 平成30年度 収支予算案(案) (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

項目	予算額	前年度	前年度との比較(△減)	備考
収入				
(1)年会費	1,400,000	1,400,000	0	
(2)入会費	10,000	10,000	0	
(3)年間購読料	51,000	54,000	△ 3,000	3000×17名
(4)学会誌掲載料	1,100,000	970,000	130,000	H30年度より論文編、作品編統合
(5)その他	0	0	0	
(6)繰越金	269,404	167,661	101,743	
財政調整積立金の取崩し	0	0	0	
収入計	2,830,404	2,601,661		
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	150,000	150,000	0	
2)学会誌発行費	1,680,404	1,450,000	230,404	カラー写真補助(論文)5万円、大会発表時記録(作品)1万円、英文会費チェック5万円含む、H30年度より論文編・作品編統合
3)事務管理経費	200,000	200,000	0	
4)通信費	100,000	89,661	10,339	
5)会報発行費	180,000	160,000	20,000	
6)事務用品費	70,000	60,000	10,000	
7)会議費	50,000	47,000	3,000	
8)交通費	40,000	40,000	0	監査・理事会交通費(実費上限2,000円)を含む
9)雑費	10,000	10,000	0	
(2)事業費				
1)事業費A	60,000	60,000	0	研究会
2)事業費B	160,000	160,000	0	論文発表会
3)事業費C	0	60,000	△ 60,000	H30年度は理事選挙なし
(3)広報費	120,000	110,000	10,000	ホームページ作成費を含む
(4)交流費	10,000	5,000	5,000	生活科学系コンソーシアム会費
支出計	2,830,404	2,601,661		
収支差額	0	0		

④財政調整積立金及び服飾文化基金の増減

	H29年度末残高	当期増加額	当期減少額	当期残高
財政調整積立金	1,478,502	0	0	1,478,502
服飾文化基金	2,000,000	0	0	2,000,000

* H27年度より特別会計の名称を財政調整積立金と変更

***** 事務局より *****

●新入会員 (敬称略 申し込み順)

正会員

- 山本 貴子 (和洋女子大学非常勤講師)
- 川井 結花子 (共立女子大学博物館学芸員)
- 太田 裕子 (学校法人越生学園武蔵越生高等学校)
(学生会員から種別変更)
- 降幡 順子 (京都国立博物館)
- 木村 知世 (和洋女子大学)
- 関口 光子 (文化学園大学文化学園大学短期大学部)
- 廣田 理紗 (島根県立石見美術館)
- 加々美 真由 (文化学園大学)
- 田中 あゆみ (和洋女子大学)
- 宮内 真理子 (パナソニック汐留ミュージアム)

学生会員

- 井上 智子 (滋賀県立大学大学院前期課程)
- 古川 咲 (共立女子大学大学院博士後期課程)
(正会員から種別変更)
- 長谷川 紗織 (共立女子大学大学院博士前期課程)
(正生会員から種別変更)
- 小池 奏江 (共立女子大学大学院前期課程)
- 安部 真里菜 (國學院大学大学院前期課程)

●退会者

- 許斐 亮子 中村 洋子
- 小形 道正

***** 研究例会のお知らせ *****

日時: 2018年10月27日(土) 13:00~15:10

会場: 東京都庭園美術館 本館スタジオ

参加費: 研究例会会場には入館チケットが必要です。各自購入して入館してください。

講演題目: 「旧朝香宮邸からアール・デコを再考する」

講師: 関昭郎氏 (東京都庭園美術館学芸員)

講演後、展覧会「エキゾティック×モダン アール・デコと異境への眼差し」を各自で見学、自由解散。

参加申込先: 菅野ももこ (女子美術大学美術館)

Email: kanno@tokyo-kasei.ac.jp

*参加希望の方は、10月13日(土)までに参加申込を必ずしてください。

*件名を「研究例会参加申込」とし、本文に①氏名②フリガナ③所属を書いてEmailでお申し込みください。

◇◇◇◇◇ 展覧会のお知らせ ◇◇◇◇◇

■「女子美染織コレクションPart7 日本の伝統と技」

会場: 女子美アートミュージアム

会期: 9月12日(水)~10月20日(土)

■「ブルックス ブラザーズ展-アメリカンスタイルの200年、革新の2世紀-」

会場: 文化学園服飾博物館

会期: 10月5日(金)~11月30日(金)

■「エキゾティック×モダン アール・デコと異境への眼差し」

会場: 東京都庭園美術館

会期: 10月6日(土)~2019年1月14日(月・祝)

■「和装モダン」

会場: 東京家政大学博物館

会期: 10月18日(木)~11月22日(木)

会報 No.36: 2018(平成30)年9月30日発行

編集発行人: 服飾文化学会

事務局: 101-8437 東京都千代田区一橋2-2-1

共立女子大学 被服平面造形研究室

TEL: 03-3237-2463

E-mail: fukubunjim@gmail.com

URL: http://www.fukusyoku-bunka-gakkai.jp